



## 2021年3月期企業動向アンケート調査(第104回) ～今期は前期比悪化するも、来期は改善の見通し～

- アンケート回答企業の今期（1～3月期）の業況判断D I（全体）は「▲ 23」と前期比 17 P 悪化し、来期（4～6月期）の見通しは、全体で「▲ 12」と、今期比 11 P 改善を見込む。
- 業種別では、建設業を除く全業種で悪化幅が前期より拡大し、卸小売業は「▲ 35」と、大幅に悪化した。来期は全業種で今期比改善の見込み。
- 資金繰りD Iは、製造業がプラスに転じた。設備・店舗等は、建設業を除く全業種で不足感が拡大した。雇用者数では全業種で不足感が強い。
- 2021年度新卒・中途採用予定では「1～5人」の企業数が最も多いが、「採用なし」「未定」も全体の約5割を占めた。
- 2020年度の設備投資実績（見込）額は、前年度比「横ばい」、投資実績額は「1千万円未満」、内容は「補修」が最も多かった。
- 新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」）の3カ月前と比べた影響の度合いでは、全体の45.9%が「変わらない」と回答し、新型コロナによるプラスの影響として合理的な働き方の進展、マイナスの影響では業務の休業や延期等があり、新型コロナの対策では、「就業時のマスク着用」「マスク・消毒液の備蓄」「換気の徹底」などが挙げられた。

＜全般的業況判断D Iの動き＞

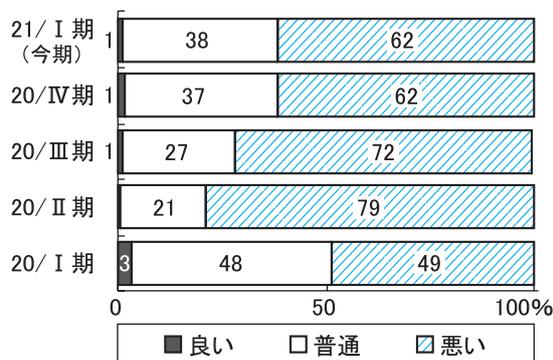
業種	D I		
	前期	今期	来期見通し
全体	▲ 6	▲ 23	▲ 12
製造業	▲ 4	▲ 21	▲ 7
建設業	▲ 9	▲ 9	▲ 8
卸小売業	▲ 11	▲ 35	▲ 15
サービス業	▲ 4	▲ 24	▲ 17

### 現在の県内景気をどう見えていますか？

#### ＜前期比横ばい＞

県内景気の判断は「悪い」が62%（前期比横ばい）、「普通」も38%とほとんど変わらなかった。新型コロナの感染者数増加により、1月7日～2月7日にかけて県独自の緊急事態宣言が発令されたことなどから、自粛ムードが広がり、景気判断に変化は見られなかった。

県内景気の判断



注）四捨五入の関係により、内訳の和は、必ずしも100%にはならない

## —アンケート調査の概要—

実施期間：2021年3月1日～3月15日

対象先：県内に本社または支店等を有する企業（600社）

内容：①景況判断

②自社の業況

③2021年度の新卒者採用予定

④2020年度の設備投資実績（見込）額

⑤新型コロナの影響と対策

調査方法：郵送によるアンケート

回収状況：回答企業268社（回答率44.7%）

※本調査は、当所と宮崎県が共同で実施し、調査結果は県政にも活用されることになります。

### <回答企業内訳>

		業 種				資 本 金		
		製造業	建設業	卸小売業	サービス業	3千万円未満	1億円未満	1億円以上
企業総数	268 100.0%	85 32.1%	58 21.9%	68 25.7%	54 20.4%	133 53.6%	97 39.1%	18 7.3%
県 央	129 48.7%	21	27	43	38	63	48	7
県 北	55 20.8%	21	14	15	5	29	21	3
県 南 西	81 30.6%	43	17	10	11	41	28	8

注）業種、資本金、所在地の未記入企業があり、総数と一致していない。下段は企業構成比率

### <所在地区分>

県 央：宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡

県 北：延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡

県南西：都城市、小林市、えびの市、日南市、串間市、北諸県郡、西諸県郡

<業種区分>：サービス業には、製造、建設、卸小売業以外の業種を含む

### <文中の用語>

前期：2020年10～12月期（12月調査）

今期：2021年1～3月期（3月調査）

来期：2021年4～6月期（6月調査）

I期：1～3月、II期：4～6月

III期：7～9月、IV期：10～12月

### DI（Diffusion Index）

「好転・増加・過剰」の回答割合（%）－「悪化・減少・不足」の回答割合（%）＝DIで、景気動向を判断する指標のひとつ

P：ポイント

### 1. 全般的業況判断 (表1、図1)

#### 前期比悪化

今期の全体における全般的業況DI(「好転」-「悪化」)は「▲23」で前期比17P悪化した。業種別では、建設業を除く全業種で前期比悪化し、卸小売業やサービス業は、新型コロナの影響で大幅に悪化した。

来期は、県内外の往来が活発になることや、年度初めの需要増、ワクチン接種の進展などの期待から、全体のDIは「▲12」の見込み。

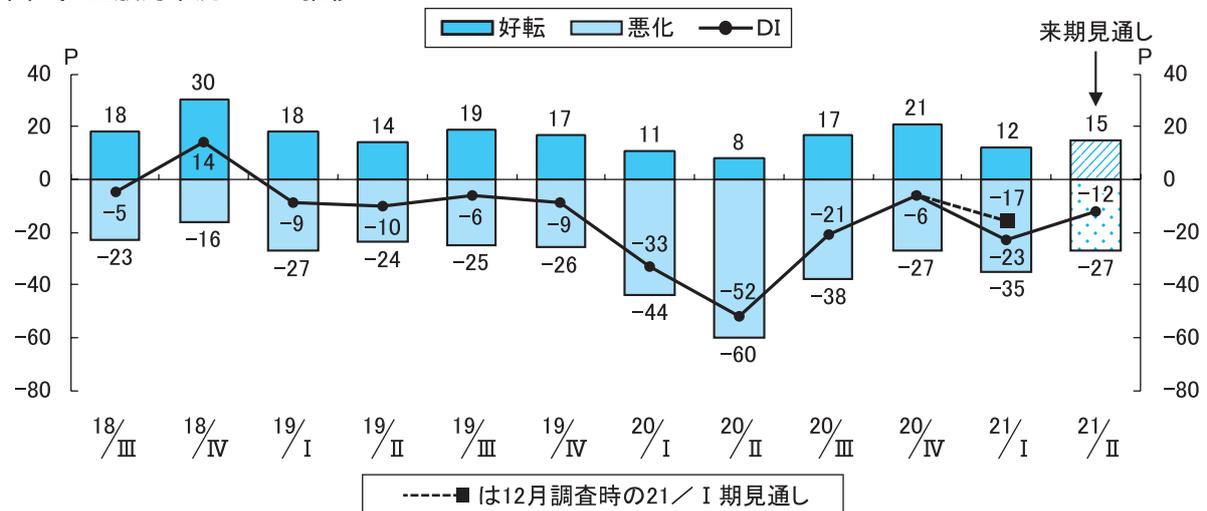
表1. 全般的業況(業種別・規模別)

単位：%、ポイント

項目	業況	好転(A)	悪化(B)	今期DI(A)-(B)	前期DI	来期DI
全体(268)		12	35	▲23	▲6	▲12
業種	製造業(87)	16	37	▲21	▲4	▲7
	建設業(58)	7	16	▲9	▲9	▲8
	卸小売業(68)	12	47	▲35	▲11	▲15
	サービス業(54)	13	37	▲24	▲4	▲17
従業員	50人未満(146)	10	38	▲28	▲8	▲12
	50~99人(56)	16	27	▲11	▲11	▲18
	100~199人(26)	23	38	▲15	30	▲11
	200人以上(30)	10	33	▲23	▲13	3
資本金	3千万円未満(134)	13	37	▲24	▲10	▲6
	3千万~1億円未満(98)	11	34	▲23	▲3	▲20
	1億円以上(18)	11	28	▲17	11	0

不明分は除く。( )は回答企業数

図1. 全般的業況のDI推移



### 2. 業種別DI

業況(前期比)、売上・利益(前年同期比)

#### ○製造業(図2、次頁表2)

#### 前期比悪化

今期の全般的業況DIは「▲21」と、前期比17P悪化した。

「機械器具」「電気電子部品」「金属製品」が受注の減少などで、「悪化」の回答が多かった。

来期見通しは「受注の低迷」など一部に悪化を見込む回答があるものの、「新製品の発売」「営業活動の拡大」など「好転」を期待する回答が増え、今期比14P改善の「▲7」の見込み。

図2. 製造業DI

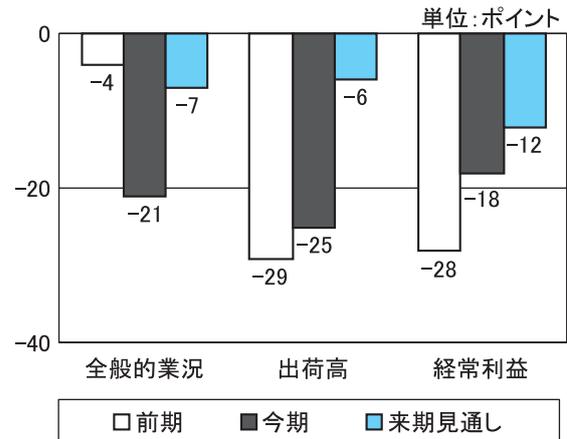


表2. 製造業9分野における業況DI

単位：%、ポイント

分野	好転	不変	悪化	今期DI	前期DI
食料品・飲料	19	38	42	▲23	23
繊維製品	14	57	29	▲15	0
木材木製品	6	59	35	▲29	▲7
化学製品	0	100	0	0	100
窯業土石	25	50	25	0	0
機械器具	0	50	50	▲50	▲50
金属製品	29	29	43	▲14	▲13
電気電子部品	33	0	67	▲34	▲100
その他製造業	15	55	30	▲15	▲20

### ○建設業 (図3)

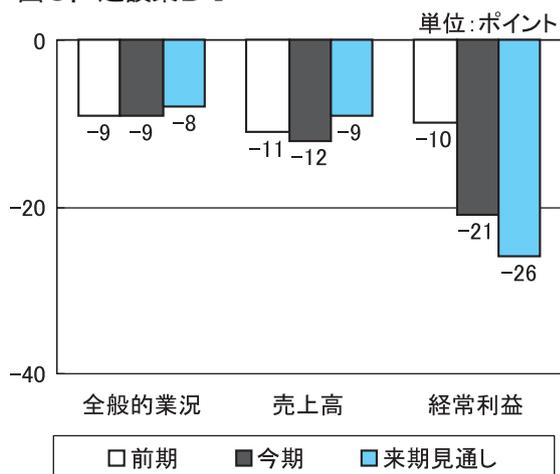
#### 前期比横ばい

今期の全般的業況DIは「▲9」と、前期比横ばいであった。

「例年同様の受注状況」「公共工事が堅調」など「不変」の回答が多かった。

来期は、「仕掛工事の減少」など一部に「悪化」を見込むものの、「防災・減災工事を受注」「民間工事の入札案件が増加」など「改善」の回答もあり、DIは「▲8」と、今期比ほぼ横ばいの見込み。

図3. 建設業DI



### ○卸小売業 (図4)

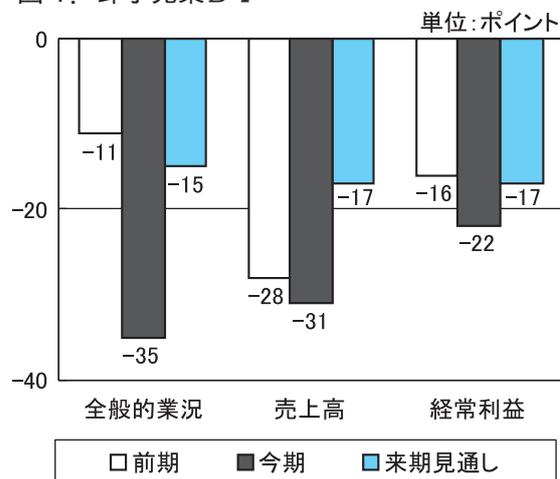
#### 前期比大幅悪化

今期の全般的業況DIは「▲35」と、前期比24P悪化した。

「年末商戦の反動減」等の季節的要因のほか、新型コロナによる「緊急事態宣言発令で来店客が減少」「飲食・宴会用の業務用食材・飲料の受注減」等「悪化」の回答が多かった。

来期は、「コロナ禍で厳しい状況が続く」など一部に「悪化」を見込むものの、「緊急事態宣言があげて徐々に需要が戻る」「ワクチン接種の普及に期待」等「好転」の回答も多く、DIは「▲15」と、今期比20P改善の見込み。

図4. 卸小売業DI



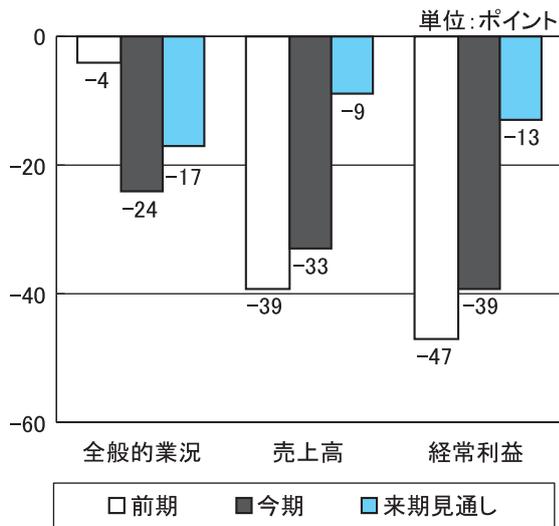
### ○サービス業 (次頁図5)

#### 前期比大幅悪化

今期の全般的業況DIは「▲24」と、前期比20P悪化した。

「リモート教育システムの受注」「引っ越し需要の増加」など一部に「好転」の回答があるものの、「イベントの中止」「観光客の減少」「夜間営業の時短制限」「来店客の減少」などでDIは悪化した。来期は、新型コロナによる「需要の低迷」等「悪化」を見込むものの、「県内外の旅客往来の増加」など「好転」の回答もあり、DIは「▲17」の見込み。

図5. サービス業D I

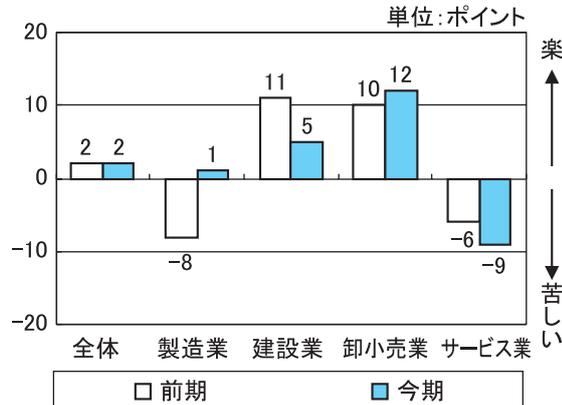


### 3. 資金繰りの現状 (図6)

#### 前期比横ばい

資金繰りの現状D I (「楽」-「苦しい」) は「全体」で「+2」と、前期比横ばいであった。業種別では、製造業がプラスに転じたほか、卸小売業も前期より改善した。建設業、サービス業は悪化した。

図6. 資金繰りの現状D I



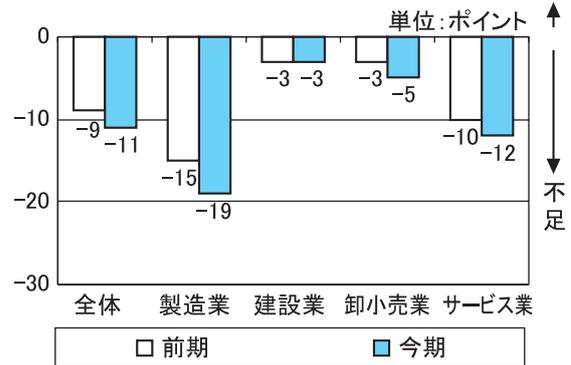
### 4. 設備・店舗等の現状 (図7)

#### 全体では「不足」の幅が拡大

設備・店舗等の現状D I は、「全体」で「▲11」と、前期比2P低下した。

業種別では、建設業を除く全業種で「不足」の幅が拡大し、製造業は「▲19」と、不足感が強まった。

図7. 設備・店舗等の現状D I

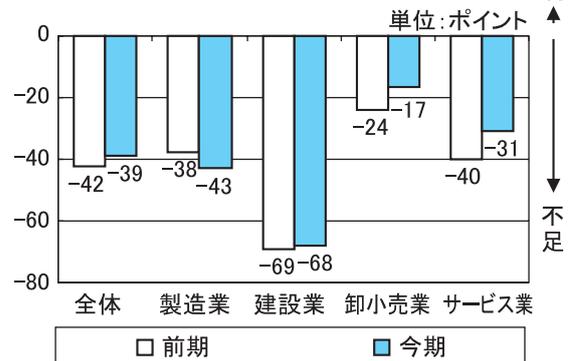


### 5. 雇用者数の現状 (図8)

#### 建設業の不足感が強い

雇用者数の現状D I は「全体」で「▲39」と、前期より3P悪化幅が縮小した。依然として全業種でマイナスの状態、建設業は「▲68」と、不足感が強い。

図8. 雇用者数の現状D I



### 6. 2021年度新卒・中途採用予定

(次頁表3、図9)

#### 「1~5人」「今年度比横ばい」が最多

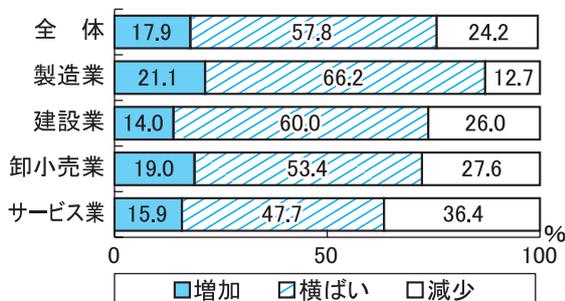
回答企業のうち、「1~5人(102社)」が最も多いが、「採用なし」「未定」の合計(127社)も全体の約半数を占めた。

「採用する(141社)」企業の採用予定は、今年度比「横ばい」の割合が全体で57.8%を占めた。業種別では、製造業で「横ばい」が66.2%と最も多かった。「減少」では、サービス業の36.4%が最多となった。

表3. 新卒・中途採用予定 単位：社

	採用なし	1～5人	6～10人	11～20人	21人以上	未定
全体	78	102	27	5	7	49

図9. 新卒・中途採用予定 (2020年度比)



注) 四捨五入の関係により、内訳の和は、必ずしも100%にはならない

## 7. 2020年度設備投資実績(見込み)額

(図10、11、表4)

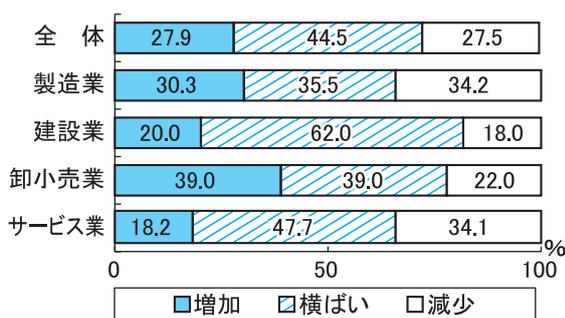
### 前年度実績比「横ばい」が最も多い

全体では、前年度比「横ばい(44.5%)」、業種別では、建設業の62.0%が「横ばい」と回答した。

設備投資額別の企業数は「1千万円未満(67社)」が最も多く、「1千万円以上5千万円未満(52社)」「1億円以上10億円未満(22社)」となった。業種別では「製造業(58社)」が最も多かった。

投資の目的は「補修(41.1%)」が最も多く、「更新(30.2%)」「生産力の増強(26.2%)」「省力化・合理化(26.2%)」と続いた。

図10. 設備投資実績(見込み)額(前年度比)



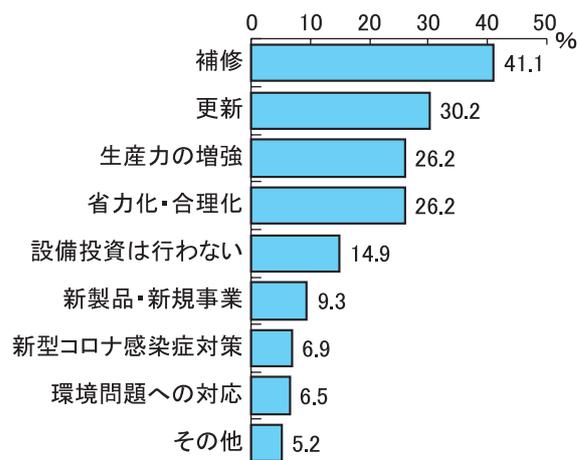
注) 四捨五入の関係により、内訳の和は、必ずしも100%にはならない

表4. 設備投資額 単位：社

	全体	製造業	建設業	卸小売業	サービス業
1千万円未満	67	20	22	20	5
1千万円以上5千万円未満	52	24	5	12	11
5千万円以上1億円未満	16	2	4	8	2
1億円以上10億円未満	22	9	5	3	5
10億円以上	5	3	-	2	-
合計	163	58	36	46	23

注) 不明分及び未定は除く

図11. 設備投資の目的(複数回答)



## 8. 新型コロナウイルスの影響と対策

(次頁表5、6、図12)

### 影響は「変わらない」が45.9%

新型コロナウイルスが業況に与える影響の度合い(3カ月前と比較)では、全体で「変わらない(45.9%)」が最も多く、業種別でも全ての業種で「変わらない」が最も多かった。サービス業は「弱まった(8.0%)」が前期比14.9P低下した一方、「変わらない(44.0%)」は同12.7P上昇した。

新型コロナウイルスの「プラスの影響」ではリモートワークによる合理的な働き方の進展や、感染防止対策がインフルエンザ予防にもつながったことが挙げられた。「マイナスの影響」では、需要の減少による営業活動の休業、減産、イベント中止、組織内の意思疎通不足などがあった。

表5. 新型コロナの影響の度合い(前期比)

	単位：%			
	強まった	弱まった	変わらない	影響はない
全 体	18.0	13.7	45.9	22.4
製 造 業	10.8	14.5	51.8	22.9
建 設 業	12.3	10.5	43.9	33.3
卸 小 売 業	24.6	20.0	41.5	13.8
サービス業	28.0	8.0	44.0	20.0
	16.8	14.3	44.7	24.2
	6.4	17.9	44.9	30.8
	14.5	1.8	54.5	29.1
	23.8	14.3	46.0	15.9
	27.1	22.9	31.3	18.8

注) 四捨五入の関係により、内訳の和は、必ずしも100%にはならない

上段：今期  
下段：前期

表6. 新型コロナの影響

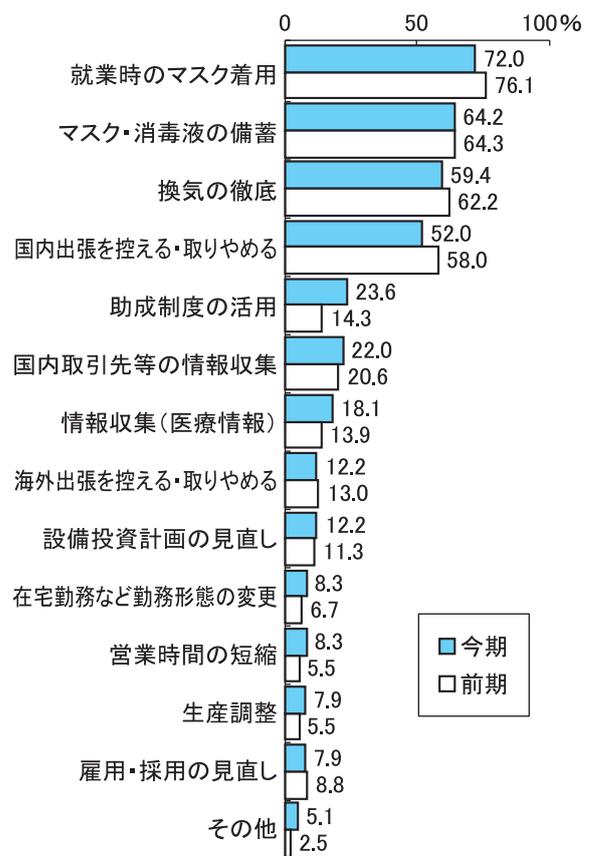
プラスの影響
出張費・飲食費等の経費減少
リモートワーク・会議など合理的な働き方の進展
マスク、手洗いの励行でインフルエンザがほとんどない
家庭菜園商品、DIYの売上増
マスクや防護服の大量受注
自動車部品の受注が回復
マイナスの影響
休業要請による売上減
住宅着工件数の減少
イベントの中止
県内外での営業活動の縮小
民間設備投資の減少、予算の縮小
減産の実施、継続
工事の延期・中止
来客の減少
対面営業がなくなり、動向や情報を得る機会が少ない
社員の感染防止対策
会議の減少で組織内の意思疎通が困難
燃油需要の減少

### 対策は「就業時のマスク着用」が72.0%

新型コロナの対策では、「就業時のマスク着用(72.0%)」が最も多く、「マスク・消毒液の備蓄(64.2%)」「換気の徹底(59.4%)」「国内出張を控える・取りやめる(52.0%)」と続いた。

上位4項目とも前期より回答率が低下し「国内出張を控える・取りやめる」は▲6.0Pと、社員の県内外への往来を増やすうごきがみられる。

図12. 新型コロナの対策



## 9. まとめ

今期は、1月に県独自の緊急事態宣言が発令されたことから、県内企業の業況判断、景気判断とも厳しい結果となった。新型コロナによる受注の減少、消費の低迷などから業況悪化の回答が増えたが、来期はワクチン接種の進展で安心感が広まることを期待する回答も多い。

設備・店舗や雇用者数の現状では不足感が強いものの、設備投資や新卒・中途採用人数は前年並みを見込む回答が多かった。新型コロナの影響も前期と変わらず、マスク、消毒液、換気などの対策が欠かせない。企業の業況改善には、ワクチン接種などの有効な対策が効果を上げるまで、官民による多方面の活性化支援が必要である。(勝池)

## 第 104 回企業動向アンケート結果（業種別）

		＜今期見込み＞				＜来期見通し＞			
		好転 増加 (A)	不変 (B)	悪化 減少 (C)	D I (A)-(C)	好転 増加 (A)	不変 (B)	悪化 減少 (C)	D I (A)-(C)
アンケート回答 企業の全般的業況	全 体	12	53	35	▲ 23	15	58	27	▲ 12
	製 造 業	16	47	37	▲ 21	17	58	24	▲ 7
	建 設 業	7	78	16	▲ 9	14	64	22	▲ 8
	卸 小 売 業	12	41	47	▲ 35	19	47	34	▲ 15
	サービス業	13	50	37	▲ 24	9	65	26	▲ 17
売上（出荷）高	全 体	17	40	43	▲ 26	18	55	28	▲ 10
	製 造 業	20	36	45	▲ 25	22	50	28	▲ 6
	建 設 業	14	60	26	▲ 12	10	71	19	▲ 9
	卸 小 売 業	22	25	53	▲ 31	21	41	38	▲ 17
	サービス業	11	44	44	▲ 33	15	61	24	▲ 9
経常利益	全 体	18	39	42	▲ 24	15	54	31	▲ 16
	製 造 業	23	36	41	▲ 18	19	51	31	▲ 12
	建 設 業	12	55	33	▲ 21	7	60	33	▲ 26
	卸 小 売 業	25	28	47	▲ 22	18	47	35	▲ 17
	サービス業	9	43	48	▲ 39	13	61	26	▲ 13
		現 状							
		楽 過剰 (A)	普 通 適正 (B)	苦 しい 不足 (C)	D I (A)-(C)				
資金繰り	全 体	19	64	17	2				
	製 造 業	18	64	17	1				
	建 設 業	19	67	14	5				
	卸 小 売 業	22	67	10	12				
	サービス業	17	57	26	▲ 9				
設備・店舗等	全 体	5	79	16	▲ 11				
	製 造 業	3	74	22	▲ 19				
	建 設 業	2	93	5	▲ 3				
	卸 小 売 業	7	81	12	▲ 5				
	サービス業	9	70	21	▲ 12				
雇用者数	全 体	7	47	46	▲ 39				
	製 造 業	3	51	46	▲ 43				
	建 設 業	3	26	71	▲ 68				
	卸 小 売 業	12	59	29	▲ 17				
	サービス業	9	51	40	▲ 31				

※回答社数構成比%  
D I は%ポイント